

洋書輸入協会会報

VOL. 19

NO. 9

(通巻221号) 昭和60年9月

理事会報告

7月26日(金)

(一) 懇談会に関するアンケート

9月12日(木)開催予定の懇談会に関するアンケートについて7月26日現在の中間報告があり、総務委員会で集約の上、8月26日の理事会で決定することとした。

(二) 国際図書館連盟東京大会

明年8月24日(日)―29日(金)開催される第52回国際図書館連盟(IFLA)東京大会の実行委員会からPR誌および協力要請の挨拶状が送られてきたことが報告された。(当協会理事長はIFLA東京大会組織委員会顧問を引受けている。)

(三) 第17回洋書まつり

10月4日(金)、5日(土)の両日東京古書会館で開催する旨の報告があった。

(四) その他。

関西支部だより

第19回関西支部長杯ゴルフコンペ

(7月20日'85、グリーンハイライトC.C. 参加者11名)

今回は前田氏のお世話で、珍しく三重県のコースで行われました。このところメキメキ腕の上った若手ホープの前々回に続く優勝でした。

	Net	Hdcp
優勝 山川芳史(ノベルティ)	73	26
2位 松永泰吉(北尾)	74	7
3位 前田敏雄(ブックマン)	78	12
4位 大年 隆(栄出版)	81	31
5位 中村光伸(ブックマン)	83	20
ドライビング賞 大年 隆、前田敏雄		
ニアピン賞 谷口定三(厚生社)、松永泰吉		
(関西支部、HM生)		

書籍展示会のお知らせ

ロンドン書籍展 1986年4月2日―4日

London Book Fair 1986

Barbican Exhibition Halls, Golden Lane, London
EC2

来日外人名簿

8月中旬 Mr. David Dresia, Managing Director,
Am. Soc. of Civil Engrs. U.S.A.

" Mr. Malcolm Clarke, Managing Director,
Clarke Associates Ltd., U.S.A.

理事会報告……………1	来日外国人名簿……………1	総代理店ご案内……………4
書籍展示会のお知らせ……………1	洋書輸入協会史 (1)……………2	外国出版社紹介 No.111 ……5
関西支部だより	文化厚生委員会だより	広告……………6
第19回関西支部長杯 ゴルフコンペ……………1	第15回東西対抗ゴルフコンペ…3	

洋書輸入協会史 (1)

洋書輸入協会顧問 相良 廣明

1. まえがき

1.1 「洋書こぼれ話」

洋書輸入協会会報 Vol. 1 No. 5 (昭和42年9月号) から、「洋書こぼれ話」というシリーズが掲載され始めたのが、洋書輸入協会として「洋書史」に眼を向け始めた最初のことである。これは当時の会報委員会のメンバーによって企画され、おおよそ時代区分をした上で業界の最長老の方々にお願いし、執筆して頂いたものである。その一覧表を作ると次の通り。

「洋書こぼれ話」一覧

福本初太郎：明治回顧 その1 (Vol. 1 No. 5) ～その8 (Vol. 2 No. 4)

中村春太郎 (談)：明治の終りから大正時代その1 (Vol. 2 No. 5) ～その4 (Vol. 2 No. 8)

服部正喬：第一次世界大戦直後から昭和初頭に至る独逸書の輸入について その1 (Vol. 2 No. 9) ～その4 (Vol. 2 No.12)

〃：第一次世界大戦のあとと今と (Vol. 3 No. 1)

八木佐吉：大正末年から その1 (Vol. 3 No. 2) ～その2 (Vol. 3 No. 3)

〃：昭和初期の大物洋書 その3 (Vol. 3 No. 5) ～その5 (Vol. 3 No. 7)

〃：昭和初年～1930前後 その1 (Vol. 3 No. 8) ～その3 (Vol. 3 No.11)

〃：1940前後のこと その1 (Vol. 3 No.12) ～その3 (Vol. 4 No.2)

石川 実：戦前の洋書輸入業者団体と戦時中及び輸入再開後の思い出 (Vol. 4 No. 3)

〃：終戦後の洋書輸入再開の経過その1 (Vol. 4 No. 4) ～その3 (Vol. 4 No. 6)

八木佐吉：洋書こぼれ話「拾遺」 (Vol. 4 No.12)

以上33回にわたって書き継がれている。筆者の中には既に故人となられた方もおられ、今にして思えば、早い時期に残しておいて頂いて良かったという感懐がある。そして「洋書こぼれ話」の第一回が昭和42年の9月号であるから、既に18年を経過しており、当時会報委員長で執筆者にお願いする立場だった47歳の私が、今年で

65歳になっているのであるから、そろそろ私自身が何かを書き残しておくべき年齢に達してきたようである。

(注) 前記「洋書こぼれ話」のうち、八木佐吉氏の分については、同氏の著書「書物往来」(昭和50年 東峰書房) に収録されている。

1.2 田辺寛氏の記録

私が紀伊國屋書店に入社したのは、昭和24年28歳のときであり、洋書輸入協会の理事会に本格的に出席し始めたのは昭和32年のことである。従って協会関係の記録が手許に残っているのは昭和32年以降のことであって、それまでは御多分に洩れず新入社員として右往左往していたので、ほとんど記録を残していない。そこでかねてから、もし洋書輸入協会史を書くとするれば、紀伊國屋書店を退職してから一年程資料集めをし、それからのこととなろうかと考えていた。

ところが何かのはずみで事務局の柴田氏から、元事務局の寺久保氏時代に、田辺寛氏から預った古い書類が事務所に保管してあるという話を聞き、ある日それを二人で調べてみた。それは、戦後永らく洋書輸入協会の事務局を勤めておられた丸善の田辺寛氏の、理事会議事録のノートであり、事務局から発行した文書の控の束であった。

そのノートは、昭和21年から42年に至っており、文書の束もほぼ同時期のものであったが、ノートの方は田辺寛氏特有の達筆の走り書きで読み辛く、早い時期の文書は当時の粗末な仙貨紙で、既にボロボロになりかけており、日付不明のものも混入して年度が定かでないなどのことがあった。そしてその文書の束は、恐らく田辺寛氏が整理し、すべてを綴じ込んでいた自分用のファイルを解体して、協会関係のもののみを抜き出し、束にして事務局に預けられたものと思われる。

これらの文書を整理していくうちに、昭和26年と書かれた束の中から、どうした訳か昭和16年3月3日付の海外出版物輸入同業会設立時の規約に、会員名簿がついた原本が紛れ込んでいるのを発見した。これを見つけたときには、欣喜雀躍ともいふべき感じがして、これだけの資料があれば、洋書輸入協会史はすぐにでも書き始めるこ

とが出来るといふ思いを持った次第である。

このような事情のために、協会史の執筆を予定よりも一年繰り上げて今月号から始めることが出来たのであり、ここに記して田辺寛氏に厚く感謝の意を表したい。

1.3 同業会の成立が遅いことに関する疑問

我我戦後の業界しか知らない者にとって、洋書の同業会が正式に設立されたのが昭和16年であるということは、大変奇異に感ずることである。現存する洋書業界の各社の社史について伝え聞くだけでも、その前身を含めて明治・大正の年間に洋書の輸入、販売を手掛けられた主な所は、

- (1) 丸善(丸屋商社):明治元年(2年)から。
- (2) 南江堂:明治12年創業、主としてドイツ医学書の輸入。
- (3) 医学書院(金原寅作):明治14年、医学書の輸入を始める。
- (4) 教文館:明治20年代から、「英米ノ書籍ヲ輸入シ、又宗教文学ソノ他ノ書籍ヲ販売シ」ている。
- (5) 国際書房:大正9年創立。
- (6) 三省堂:関東大震災後に再建したバラック建ての店舗で、この時の売場主任の天童氏が洋書と和書を並べて売ることを考え、そして成功する。
- (7) 福本書院:大正15年創立。

などである。「洋書」という言葉の定義を、洋を越えて輸入された書物とすれば、洋書の輸入・販売に携わった業者は優に近世初頭にさかのぼることが出来ようが、それはさておき明治以降に限定しても、一寸数えあげるだけで上記の7社が現存する。前述の昭和16年3月3日の海外出版物輸入同業会規約につけられた名簿では、昭和14年と15年の2ヵ年以上にわたって海外出版物を輸入した実績を持つものに限った上で、なおかつ会員19社を数える。

このように古くから、かつそこそこに同業者の数もありながら、どうして業界団体の成立が昭和16年をもって始めてとする程遅れたのであろうか。この点は諸先輩に御教示を賜りたい所であるが、私の個人的推定では、丸善があまりにも大きく、他社との格差がはなはだしかったために、同業会が成立しにくく、かつ丸善にとってはその必要も少なかったためではないかと思われる。

2. 海外出版物輸入同業会の成立

文化厚生委員会だより

第15回東西対抗ゴルフコンペ 4年ぶり、浜松シーサイドで

橘や、枯れてもここに十五代一先代(十五代)羽左衛門の名台詞だったと記憶しますが、東西合同の懇親コンペも15年の星霜を経て、ようやくコミュニケーションの場として定着しつつあることは、ご同慶にたえません。この15回の記念大会は、日頃われわれの商売のネタを提供してくれている諸外国への謝恩の意味で、賞品はすべて舶来品として国策に協力し、なつかしき浜松シーサイド G. C. で8月24日に行われました。東軍16名、西軍10名、6勝6敗2分の決勝戦でしたが、終ってみれば西軍の惨敗で、さすがに層の厚い東軍の連勝でした。

個人戦 Out In Gross H.P. Net

優勝 佐藤 晃(ナ ウ カ) 39 42 81 10 71

2位 市川 温(H. B. J.) 45 40 85 10 75

3位 中村光伸(ブックマン) 47 49 96 20 76

4位 村山新吾(ゲ ー テ) 45 46 91 14 77

5位 池田 優(ユ サ コ) 47 47 94 17 77

ベストグロス賞 佐藤 晃

ドライビング賞 和田 茂(大洋交易)、谷口定三(厚生社)

ニアピン賞 柿谷幸造(ノベルティ)、山川隆司(ユサコ)、鍵谷紀元(ノベルティ)、大野 俊(丸 善)

団体戦 ○東 軍 18—2 西 軍

尾崎 (エイビス) 引 分 松永 (北 尾)

○山川 (ユ サ コ) 4—3 杉原 (ユニオン)

○鍵谷 (ノベルティ) 3—2 前田 (ブックマン)

○石田 (丸 善) 3—2 谷口 (厚生社)

大野 (丸 善) 引 分 山川雅(ノベルティ)

○佐藤 (ナ ウ カ) 5—4 中村 (ブックマン)

○相良 (紀伊國屋) 6—5 三宅 (三晃図書)

○市川 (H. B. J.) 3—2 柿谷 (ノベルティ)

○鶴 (東亜ブック) 1 up 畑 (厚生社)

○村山 (ゲ ー テ) 2—1 山川芳(ノベルティ)

(関西支部、松永 記)

2.1 同業会成立以前の状況

石川実氏の「洋書こぼれ話」の、「戦前の洋書輸入業者団体と戦時中及び輸入再開後の思い出」(洋書輸入協会会報——以下JBIA会報と称する——Vol. 4 No. 3, 昭和45年3月号)に、同業会成立以前の状況が要領良く且つ詳しく述べられていて、これ以上付け加えることはなにもない。しかしこの協会史の進行上、石川氏のレポートの要点を再録してみると、

(1) 洋書輸入業者の団体行動としては、小規模ながら外誌クラブが最初ではなかったかと思う。その成立は昭和10年以降と思われ、その目的は官庁・大学などからの外国雑誌購読の予約受注に際して、過当な見積り競争がなされるようになったので、丸善・三省堂・三越・南江堂の4社が非公式にこの名称を採用して、共同行動を取ったもの。

その共同行動は、適正な為替換算率の設定、官庁・大学等に対して外国雑誌予約業務の特殊性の説明と、その理解を得ることへの努力であり、一応その成果を納めることに成功した。

(2) この四社に、国際書房とパート商會が合流して洋書輸入懇話会となった。これは輸入為替許可制が制定された昭和12年以降であると思う。

(3) 一方で、満州事変後の国際関係の悪化に伴い、思想関係書の輸入の抑圧が始まり、内務省警保局において輸入禁止と決定されたものがリスト化され、次々と洋書輸入業者に交付され、また所轄署の警官が店頭を調べ、該当書があれば容赦なく没収していくようになった。

税関には図書検閲係が設置され、随時郵便小包、ブックポストなどを開封、検閲することとなった。

(4) これらに次いで、昭和12年に輸入為替許可制の採用または輸出入品等臨時措置法が制定されるに及んで、不急不要書の輸入を差し控えるようにとの要請が強くなった。これについて懇話会は大蔵省、文部省などにも陳情して、当分は輸入業者の良識と協力に任された。

(5) 昭和15年12月、内閣情報部は情報局となり、図書の出版販売の全面的統制をはかることになったが、洋書の輸入もまたその管轄下に入ることとなった。そして間もなく同局内に洋書輸入審議会が創設された。

この審議会は、情報局の担当官と、陸・海・文部・

大蔵・外務の各省係官によって構成され、その要請によって洋書輸入懇話会の代表として、丸善の山崎民雄氏と私(石川実氏)が出席した。

(6) この審議会の目的は、為替制限強化のための不急不要書の制限と、時局に即応する重要書を早急に輸入したいということであった。そしてその為に輸入業者の積極的な協力を求められた。これに対し、洋書輸入懇話会の全員で、或いは個々で情報局の担当官と懇談、理解と配慮を得るよう努力したが、更に業者の完全協力体制が必要となり、かつ当局の指示もあって、昭和16年3月3日、海外出版物輸入同業会が結成されることとなった。

(注)他の出版関係業界の状況

出版業界においては、内閣情報部の方針を受けた内務省が、出版新体制確立のため、既存の各出版団体を解体して一元的機関に統合するよう要請、昭和15年12月19日に日本出版文化協会(文協)が設立された。

更に昭和16年5月5日には、全国の出版物取次業者を一元として、日本出版配給株式会社(日配)が創立され、国内の出版物の配給に関して一元化された。

書籍・雑誌の輸出についても、多年海外に向けて輸出業務に従事していた商社20社が、その輸出実績を統合包括し、書籍・雑誌の一元的輸出を営む目的で、昭和17年1月28日に日本出版貿易株式会社が創立された。(つづく)

参考書：丸善百年史

三省堂の百年

日本出版貿易株式会社、創業三十年の回顧録

総代理店ご案内

中央洋書 (株)

☎(03)294-5151

John Wiley & Sons, Inc., U.S.A.

National Medical Series:

Psychiatry. (ed. by Scully) ……………入荷 ¥6,800

Obstetrics & Gynecology.

(ed. by Beck) ……………11月入荷予定 ¥6,800

Churchill Livingstone, U.K.

Govan, A.D.T. 他著

Gynaecology Illustrated,

3rd edition入荷 ¥5,520

㈱ 紀伊國屋書店

☎(03)354-0131

Elsevier—NE—

Abbreviations Dictionary. 7th ed.

De Sala, R. (ed.) 1985: 12 1,200 p.

.....ca. ¥18,000

丸 善 ㈱

☎(03)272-7211

Oil & Gas Journal (Oil & Gas Journal, U.S.A)

.....To Industry ¥19,100

.....Non Industry ¥27,000

.....Air Cargo To Industry ¥67,100

.....Air Cargo Non Industry ¥75,000

Lawrence Erlbaum Associates Ltd. (USA)

.....All periodicals

Lawrence Erlbaum Associates Inc. (GBR)

.....All periodicals

外国出版社紹介 No.111

S. KARGER AG

(P.O. Box Postfach Case Postale CH-4009 Basel)

スイス・バーゼル市に本社を置くカルガー社は、世界有数の医学専門出版社として著名です。現在71種の定期刊行物を中心に、多数の単行本、ハンドブック、シリーズ物、議事録などを発行しております。

カルガー社の創業は、1890年 Samuel Karger 氏がベルリンで医学出版社を起こしたことにさかのぼります。最初の出版物は1890年の A. Dührssen による Geburtshülffliches Vademecum で、又最初の創刊誌は Dermatologische Zeitschrift (現在の Dermatologica) で1893年に出版されています。

第一次大戦後、息子の Heinz Karger 氏が父の会社に入社、そして Samuel Karger 氏が亡くなった1935年には、すでにナチスが台頭し、ユダヤ人の経営する出版社がドイツ国内に存続すること自体困難な状況との判断から、Heinz Karger 氏は会社の移転について考えはじめました。

移転先は外国からの移住に厳しいスイスでしたが、同国の医学団体が強くカルガー社移転について支持してくれたことから、スイス移民関係当局の認可をうけることが出来ました。

バーゼルでの会社再建は困難を極めました。ドイツの学協会や医療機関では、もはやカルガー社出版物は購入されず、さらにナチスは同社雑誌の編集陣に加わっていたドイツ人やオーストリア人の総引き上げを命じました。その結果として、購読者や編集者を広く

世界に求めることとなり、雑誌にはラテン語のタイトルがつけられたり、ドイツ語の記事に限らず、英語や仏語の記事も掲載されるようになり、また各記事には3ヵ国語の要約もつけられるようになりました。

戦後カルガー社は飛躍的な成長を遂げ、数多くの医学雑誌を創刊する一方、化学の分野にも進出し、1948年には Theilheimer's Synthetic Methods of Organic Chemistry の第1巻を出版しています。また1952年にはアレルギー国際会議のプロシーディングを初めて出版し、以後医学分野におけるプロシーディングを多数出版しています。

1955年、Heinz Karger 氏は医学研究の進展に大きく貢献したことにより、バーゼル大学医学部から名誉学位を授けられています。彼の死後4年目に、息子の Thomas Karger 氏(現社長)が社業を継ぎ、1963年には「Heinz Karger 博士記念財団」を創設しています。当財団がスポンサーとなり、毎年優れた医学研究の原著論文が募集され、4名の審査員により選出された最優秀論文はカルガー社の雑誌に発表され、著者には賞金が贈られています。

今日、カルガー社は世界各国に社業を拡大し、ニューヨーク、モントリオール、ミュンヘン、ロンドン、パリ、東京、シドニー、ニューデリー、クアラルンプールなど世界の大都市に事務所を設置し、同社出版物の普及に努めています。(H. I. 記)

世界の電気・電子工学をリードする 英国電気工学者協会誌

IEE Periodicals

商品コード	誌名	1986年巻数	発行回数	年間予約価
C38615X	Computer-Aided Engineering Journal	3	年6冊	¥26,200
E13800U	Electronic Systems News	—	年3冊	¥1,380
E14650G	Electronics Letters	22	年25冊	¥91,500
E14800B	Electronics & Power	32	年11冊	¥35,800
I 02400 I	IEE News	11	月刊	¥18,400
S26070H	Software Engineering Journal	5	年6冊	¥25,700

IEE Proceedings

- Part A : Covering Physical Science, Measurement and Instrumentation, Management and Education, Reviews
 Part B : Electric Power Applications
 Part C : Generation, Transmission and Distribution
 Part D : Control Theory and Applications
 Part E : Computers and Digital Techniques
 Part F : Communications, Radar and Signal Processing
 Part G : Electronic Circuits and Systems
 Part H : Microwaves, Antennas and Propagation
 Part I : Solid-State and Electron Devices
 Part J : Optoelectronics

隔月刊
+
特集号(不定期)

IEE Proceedings の予約方法

- 上記 Part A～J までのいずれかを最低 3 Parts 以上予約する必要があります。2 Parts 以下のご予約は受け付けられませんのでご注意ください。
- 3～10 Parts までの組み合わせ価格は以下の通りです。Part の組み合わせは自由です。
- 10 Parts を超える予約の場合は、1 Part 増える毎に ¥21,600 が加算されます。

102374C	3 Parts	¥117,300
102375D	4 Parts	¥143,500
102376E	5 Parts	¥163,300
102377F	6 Parts	¥179,400
102378G	7 Parts	¥186,700
102379H	8 Parts	¥197,800
102382D	9 Parts	¥207,000
102380B	10 Parts	¥216,200

PPL Periodicals

商品コード	誌名	1986年巻数	発行回数	年間予約価
I 01140Y	ICL Technical Journal	5	年2冊	¥8,740
M14100S	Medical & Biological Engineering & Computing	24	隔月刊	¥66,700
W10870U	Wiring Installations & Supplies	—	年2冊以上	¥4,140

〈注記〉 すべてのご予約は Calendar Year Basis (1～12月契約) でのみ承ります。



日本総代理店
株式会社 紀伊國屋書店

サンプル雑誌ご希望の方は、官製はがきに住所・郵便番号・氏名・年齢・電話・勤務先を記入の上、弊社外国雑誌部 JIBIA 係宛、お申し込み願います。

本社 〒160-91 東京都新宿区新宿3-17-7 ☎03(354)0131
 外国雑誌部 〒156 東京都世田谷区松丘5-38-1 ☎03(439)0124

昭和 60 年 9 月 通巻第 220 号 洋書輸入協会 編集者 柴田 三夫
 ☎ 103 東京都中央区日本橋 1 丁目 20 番 3 号 藍沢ビル 603 号室 ☎ 271-6901
 ☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田 1-10-2 第一山中ビル ☎ 371-5329